

自己点検・評価報告書

令和3年度 数理・データ科学・AI 教育プログラム

1 評価体制について

鳴門教育大学・学校教育学部教務委員会は、「教育課程の編成及びその実施」、「内部質保証」に関する事項を取り扱うこととしており、本プログラムの推進について議論・評価を行う。

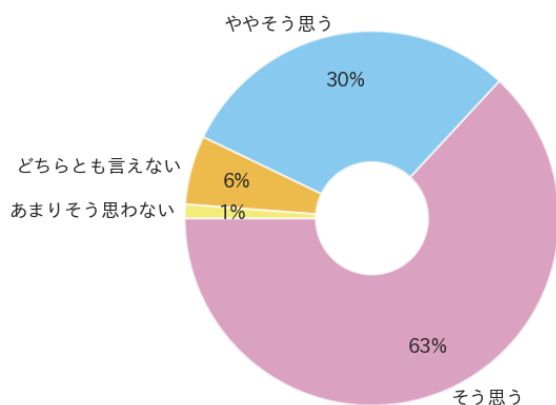
2 学内からの視点

2.1 プログラムの履修・修得状況

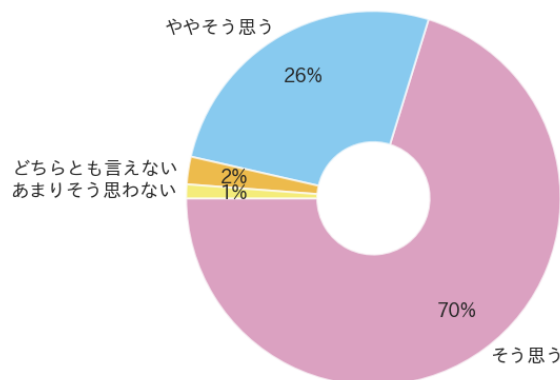
令和3年度は全1年次生114名が履修し、全員が修了した。本学の収容定員が400名であることから、履修率は114名 / 400名 = 28.5%である。

2.2 学修成果・学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

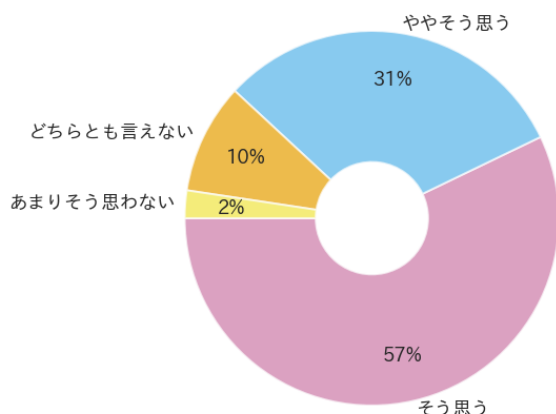
本プログラム構成する講義「基礎情報教育」の終了時に、学生による授業評価アンケートを実施した。このアンケートの結果から、講義の等について、いずれも高い評価を得ている(下図)。



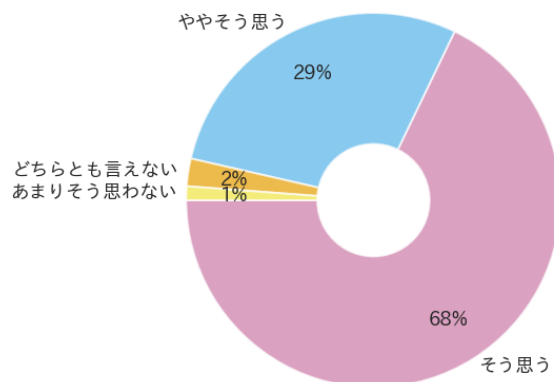
(4)授業内容は、授業の目標とつなげて、教養を深めたり、教育の見方・考え方、専門的知識等を理解できるものだった。



(9) 授業によく出席し、積極的に取り組んだ。



(11)授業内容をよく理解するために教員に質問したり、他の学生と話し合ったりした。



(15)総合的に評価して、この授業は満足できるものであった。

「(4) 授業内容は、授業の目標とつなげて、教養を深めたり、教育の見方・考え方、専門的知識等を理解できるものだった。」では、「そう思う・ややそう思う」が93%であり、受講生の理解度に関しては十分な成果を達成していると考えられる。「(9) 授業によく出席し、積極的に取り組んだ。」についても、「そう思う・ややそう思う」が96%と受講生が100名を超える授業としては、十分高い評価であると判断できる。「(11) 授業内容をよく理解するために教員に質問したり、他の学生と話し合ったりした」では、「そう思う・ややそう思う」が88%と他の項目と比較すると若干低い評価であるものの、ほとんど学生が教員や他の受講生と議論や話し合いを通して学びを深めたことが伺える。最後の「(15) 総合的に評価して、この授業は満足できるものであった。」は「そう思う・ややそう思う」が97%と受講生の満足度は非常に高いことが分かる。

以上のように、どの項目においても非常に高い評価を得ており、この水準を維持しつつ、より教育内容を充実させるていくことが必要である。また、本アンケートは鳴門教育大学学校教育学部の全ての講義で使用されているものであり、「数理・データ科学・AI教育プログラム」の目標に沿った、より具体的なアンケートあるいは意見収集が必要であると考えられる。この点は次年度以降の課題としたい。

2.3 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度および全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本プログラムを構成する授業科目「基礎情報教育」は、1年次の必修科目であることから、「後輩等他の学生への推奨度」および「履修状況」は自己点検・評価の対象外とした。

3 学外からの視点

3.1 教育プログラム修了者の進路・活躍状況、企業等の評価

令和4年5月の時点で、本プログラムを修了した卒業生はいない。令和7年度以降の卒業生調査において、本教育プログラムを修了した卒業生の進路先や活躍状況の把握が可能である。

3.2 産業界からの視点を含めた、教育プログラム内容・手法等への意見

鳴門教育大学大学院には現職の学校教員が所属しており、本プログラムのデータ科学に関する講義・演習部分についての意見を大学院生から収集した。その結果、「考える活動があり、主体的に学べる」点が評価できる一方で「確率分布や統計的推測などの内容も含めるべきでは」という意見があった。今後、改善を検討したい。また、6月に開催予定第69回中国・四国地区大学教育研究会分科会(情報教育)で本プログラムの内容について講演し意見収集を行う予定である。

4 改善・進化に向けた取組

4.1 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

本プログラムを構成する授業科目「基礎情報教育」の授業担当者間で、学生アンケートや学校現場からの意見を共有し、学校教育の観点から「数理・データサイエンス・AI等を学ぶことの意義」を理解できるよう、講義内容と実施方法の見直しを検討した。特に、教育関係のデータをより多く取り入れるべきとの意見があり、次年度以降、教育関係データの割合を増やすことを検討している。

4.2 内容・水準を維持・向上しつつ、「分かりやすい」授業とすること

内容・水準を維持・向上しつつ「分かりやすい」授業とするために、より身近に感じられたり、将来教員になった際に活用できると感じられるような内容に改善することを検討してきた。そのために、愛媛大学が主催する「データサイエンス教育セミナー」に参加するなど、情報収集に努めてきた。しかし、産業界からの視点や意見についての情報収集は不十分であり、次年度以降改善を進めたい。